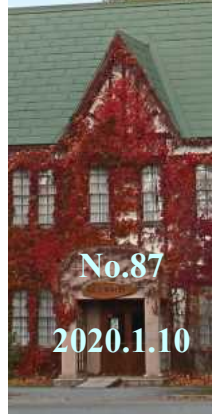


りんご研究所ニュース



No.87

2020.1.10

令和最初の・・・

公益財団法人青森県りんご協会主催「青森県りんご品評会」の審査や「献上りんご」の箱詰め作業など、りんご研究所の活動を紹介します。

【青森県りんご品評会】

令和元年11月27日、弘果・弘前中央青果特設会場において、最終審査を、りんご研究所職員が審査員となり行われました。今年の出品点数は、団体の部が137点、個人の部が588点でした。本年は、四月から八月中旬まで長期にわたり降水量が極めて少なく、夏場と秋が高温など当研究所の気象観測史に残るような年でした。このため、

最終審査風景



りんご栽培にとっては大変厳しく苦勞の多かった年でしたが、生産者をはじめ関係者各位の努力により、商品性の高いりんごを生産することができました。

審査の結果、団体の部第1席・農林水産大臣賞は5年連続で広船支会が、また、個人の部第1席・農林水産省生産局長賞は新岡支会の佐藤裕介氏が受賞しました。おめでとうございます。



【献上りんごの箱詰め】

令和元年12月4日に令和最初の「献上りんご」の選果・箱詰め作業を行いました。献上りんごは、昭和3年から続く伝統行事で、昭和、平成、令和と受け継ぎ、今年で75回目を迎えました。高温や干ばつなど、栽培管理に苦勞した年でしたが、品質の良い果実を厳選し、「ふじ」と「紅玉」(紅玉はJA津軽みらい提供)の詰め合わせを献上しました。

女性圃場員が緋の作業を着て、りんごを一つ一つ和紙で包み、心を込めて箱に詰めていきました。翌5日に当研究所を出発し、6日に県東京事務所を通じて赤坂御所を上されました。



【青森産技わくわく
フェア】

青森産技が開発した技術の体験や新品種等の試食ができる「青森産技わくわくフェア」が令和元年11月23、24日にサンロード青森で開催されました。水産部門からは新サイモンの解体ショーが、工業部門からは3Dペンを利用した3Dアートの作成体験等が行われました。りんご研究所からはりんごの試食(千雪、星の金貨、はつ恋ぐりん)及びはつ恋ぐりんのジュースの提供を行いました。

はつ恋ぐりんのジュースの試飲提供は初めての試みでしたが、スッキリとした味で飲みやすいと好評でした。りんごの試食投票では3つの品種の中では星の金貨が209票獲得し、一番人気でした。

例年、星の金貨の人気は千雪とほぼ同じ投票数になります。今年は一部の千雪に軟質果がみられたことで、結果に偏りがみられました。

試食りんご及びはつ恋ぐりんジュースの提供



試食りんご人気投票結果



【研究風景】

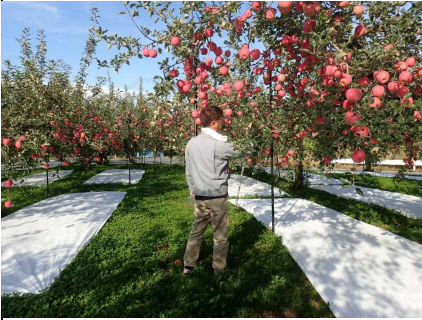
○ベトナム向け輸出拡大へ
(病虫部)

ベトナム向けりんご輸出は有袋栽培が条件になっていましたが、労働力

無袋栽培の果実



有袋栽培の果実



不足などの問題があります。そこで、条件緩和を目指すとして、津軽地域の4圃場において、病害虫の発生状況を有袋栽培と無袋栽培で比較して調査しました。

なお、本調査結果や査察後の一国間協議の結果、ベトナム向けりんごに係わる規制条件が緩和され、無袋りんごの輸出が令和元年12月15日から解禁されました。

○シャインマスカット樹の
剪定と果実分析

(県南果樹部)

圃場管理や試験であわただしく過ごした1年ももう終わろうとしています。シャインマスカットの調査もほぼ終わり、剪定の季節になりました。一時降雪があつたものの、天候に恵まれて作業は順調に進み、シャインマスカットの剪定作業を終えることができました。来年も良品果房技術開発のために精進したいと思います。

